

フードバンクちは通信

フードバンクちは 〒260-0835 千葉市中央区川崎町 60 (花の駅そが内)

Vol.27

2023年
8月発行



フードバンクちばの 役割と責任を果たすために

CONTENTS

- 1 熊谷千葉県知事がフードバンクちばを視察されました。
- 2 「千葉県におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業」の中間報告
- 3 10周年記念イベント「支え合う社会を目指して」を千葉市美術館で開催しました。
- 4 様々な形のフードドライブの輪が広がっています。
- 5 2022年度実績報告
- 6 「花の駅」そが公園を通じて、地域の中で支援の輪が広がっています。

現在の支援状況

2023年4月～6月までに提供した食品

団体: 約 **14.4**トン
(のべ149件)

個人: 約 **5.1**トン
(のべ616件)

内訳: お米・調味料・パスタ・そうめん・缶詰・菓子・飲料・災害備蓄品など

熊谷千葉県知事がフードバンクちばを視察されました。

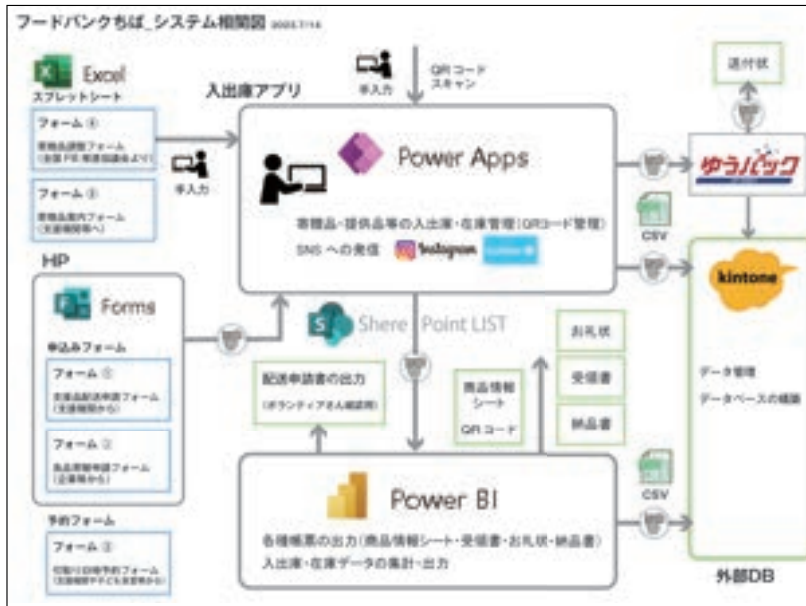
6月7日、熊谷俊人千葉県知事がフードバンクちばを視察に来られました。今回の視察は、今年2月の県議会で令和4年度の補正予算として決定した「千葉県フードバンク活動物価高騰対策支援事業補助金」の今年度実施発表に先立ち行われたものです。当日は、県の担当課である健康福祉指導課から5名、報道広報課から5名の計10名、NHK、チバテレビ、TBSテレビを含む約15名の報道陣が来訪し、フードバンクちば開設以来の大掛かりな視察となりました。知事は施設内を視察後、ボランティアの方に質問したりと丁寧に対応された後、報道陣非公開の懇談という形で、県内のフードバンク活動の現状と活動を行っていく上での課題等をお話し、30分ほどで退出されました。知事はその後の報道陣からの取材に対し、「フードバンクの認知を拡大していくとともに、県としてもさらなる支援を検討していきたい」と話され、今後のフードバンク活動への大きな後押しとなりました。

今回の補助金は、物価高騰によってフードバンクの扱い量が増えることへの対策として、上限200万円のうち半分を補助するというものです。知事には、千葉県全域を対象に活動するフードバンクちばのような活動では、今回の補助では不十分である一方で、規模の小さなフードバンク団体には使いづらい仕様であること、実情に合った形での支援策が必要とお話しし、ご理解いただきました。今後は、千葉県との連携推進を進めていく中で、県内全域でフードバンク活動を発展させるための協議を重ねていくこととなります。

・熊谷県知事ツイッター
https://twitter.com/kumagai_chiba/status/1666336716284915718
・報道8社 (NHK、TBS、千葉テレビ 他)
<https://www3.nhk.or.jp/inews/chiba/20230607/1080020881.html>
<https://www.chibanippo.co.jp/news/local/1068792>
<https://www.youtube.com/watch?v=RfGNmRbsYkk>



業務のIT化による業務負荷の軽減・平準化—ソフト機能の強化



これまでバラバラに行っていた出入庫作業から集計作業までを一連のシステム上に落とし込んだ図

カゴ車による管理体制も2年目に入り、仕分けや入れ替え等のルールも、ボランティアの方々に浸透。人的負担も軽減し、スムーズな賞味期限管理が行えるようになってきました。入出庫管理については、テストアプリの検証を終え、オリジナルアプリが年度内に完成する予定です。寄贈や支援依頼の申し込みがホームページ上からもできるようになり、郵便局が提供するアプリとも連携し、送付状の出力も可能となります。これまでバラバラに行っていた作業をようやく、一連の流れの中に位置づけることができました。今後は現場での検証を重ね、フードバンク活動団体の効率化に役立つよう汎用性の高いものに仕上げるよう努めていきます。

物流サテライト拠点の整備—ハード機能の強化



拠点の2ヶ所目は、九十九里北総エリアです。この地域で長年、生活困窮者支援事業を中心に活動されている特定非営利活動法人リンクが、支援の一環で行っていたフードバンク活動をパワーアップさせ、「フードバンクさんぶ」として今年4月からスタートしました。同時期にパルシステム千葉東金センターより毎月予備青果の寄贈が始まり、地域の子ども食堂や食支援団体へ配布。同センターの組合員フードドライブの回収品も「フードバンクさんぶ」で活用していただき、地域密着型の活動を応援していきます。さらに今年度は南房総エリアへの3ヶ所目の拠点設置に向け、地域に根ざしたフードバンク活動を目指して関係団体と話し合いを進めています。



中核的フードバンクのプラットフォーム機能の充実

様々な連携やプロジェクト、双方向の支援やマッチング等、多業種を結びつける役割を今後も担っていきます。

大学生支援プロジェクト ちば産学官連携プラットフォームとの連携も3年目を迎えました。

昨年は、ボランティア活動に加え、淑徳大学の授業の中でフードバンクについて考える時間をいただき、食品ロス現状や生活困窮の問題を通じて、フードバンクの課題について学生目線で様々な意見をいただきました。

渡辺パイプ株式会社 自社の物流網を使って、南房総エリア等のフードドライブ品回収に着手

管材・住設等、生活インフラに関わる商材を扱う渡辺パイプ株式会社は、全国550カ所に営業所を構え、独自の物流ネットワークを持っています。今回、社会貢献の一環として、物流網を使った支援ができないかというお申し出をいただき、該当地域の社会福祉協議会のご協力のもと、フードドライブ品の回収・配送を試験的に行いました。

JA全農ちば 南総連合農業倉庫にて玄米約60袋の保管に協力いただいています。

古米の大量寄贈がある秋口に保管場所に苦慮していることを相談したところ、専用倉庫での保管から運搬まで快くお引き受けいただきました。

ジェフユナイテッド市原・千葉 ウクライナ避難民支援プロジェクト

ウクライナの方々を支援する「お茶しませんか」プロジェクトへの協力をご相談したところ、リーグ戦への招待が実現しました。当日は、ピッチ内見学等盛りだくさんの内容で、サッカー好きのウクライナの皆さんは大変喜ばれていました。



10周年記念イベント「支え合う社会を目指して」を千葉市美術館で開催しました。

昨年10月29日に10周年記念イベントを開催。50名以上の方々にご参加いただきました。当日取材していただいた、日本労協新聞の本田真智子さんの記事を一部編集させていただき転載します。

「困る人がいない社会を」

来賓挨拶では、神谷千葉市長が「フードバンクちばがこの10年間で果たしてきた役割は、大きなものがある。本当に感謝したい。今困っている人のためにフードバンクを支援しながら、将来的には生活に困る人がいない社会を目指していかなければいけない」。立ち上げ準備時から協力関係の千葉県労働者福祉協議会会長鈴木光さん、フードドライブの共催者でもある県社会福祉協議会会長石渡哲彦さん(代読)、県内生協連携キャンペーンを共に行う千葉県生活共同組合連合会会長理事首藤英里子さん、食品や資金の寄付等でバックアップいただいている千葉ロータリークラブ会長川崎鉄男さん(代読)より、継続した連携や協力をお約束いただきました。



10大トピックスでは、10年を振り返り、「フードドライブ」は30回を超え、最高約25トン、開催窓口は今では約100カ所に。過去に支援を受けた方や子ども達を含め、多くのボランティアや団体の方々に支えられてきたということを紹介。続いて、3団体とボランティア1組の功労者表彰。立ち上げ時より協力関係にある千葉市社会福祉協議会。設立報道を見てすぐに連絡をくださったヤマサ醤油株式会社環境保全室。社内での議論を乗り越え、寄贈を実現してくださった株式会社永谷園ホールディングスCSR推進室。ボランティア代表として、毎週定期的に来てくださり、困っている人の状況を考えて必要なものを的確に箱詰めしてくださる長谷部貞夫さん、純子さん夫妻。皆さまには、感謝状と記念品(キャラクターおたまちゃんの手作り像)を贈呈しました。

「食の支援は意欲に」

関係者のビデオメッセージに続き、厚労省地域共生社会推進室長米田隆史さんに「地域共生社会の中でのフードバンクの役割」をテーマに講演いただき、フードバンクの可能性について、「食の支援から、支援される人の社会参加、地域住民や企業が地域活動に参加するきっかけ、食を通じた居場所等、人々のつながりが生まれる」と話されました。今後期待することとして、フードバンクふなばし代表笹田明子さんが「フードバンクの立ち上げや運営の相談、手をつないで進んでいける仕組みをつくってほしい」、中核地域生活支援センターいちほ福祉ネット所長大戸優子さんが「食料支援を通じて、支援者と相談者の関係性が近づく。フードバンクが必要とされている間は、皆さんと力を合わせていきたい」とメッセージ。



「共生社会の基盤」

最後に「次の10年に向けたアジェンダ(議題)」を提起。「より幅広い生活困窮者のニーズ、災害時も含めた緊急のニーズに応えられるような仕組みづくり。物流システムも含め、ICT化・効率化を進める。支援する側、される側を越えた、地域共生社会のプラットフォーム(共通の活動基盤)づくりを目指す」を挙げ、さらに「県内で広がるフードバンクの連携も大事なテーマで、新しくできるフードバンクの支援、関係団体とのネットワークづくりも。県内の様々な人達と一緒に、この仕組みを継続できるように、千葉モデルをつくっていきたい」と力を込めました。

被災地支援 台風15号の被災地、静岡市への支援

フードバンクちばでは、被災地への支援も継続して行っています。昨年秋には、台風15号による豪雨で大きな被害を受けた静岡市で広範囲に渡る断水が発生し、静岡県で活動する「フードバンクふじのくに」からの支援要請を受け、社会福祉法人翠昂会と千葉銀行に急遽お願いし、飲料水合わせて約4トンをご用意いただきました。トヨタレンタリースにトラック急遽手配いただき、フードバンクのバンと2台でお届けしました。現地にお届けした水は、その日の内に地元支援団体を通じ、断水地域の生活困窮世帯やひとり親家庭等に配布されました。緊急時の支援は時間が勝負となります。ご協力いただいた皆さまにあらためてお礼申し上げます。



業種を超えて様々な形のフードドライブの輪が広がっています。

第30・31・32回フードドライブにご協力いただきありがとうございました。 第30回(5~6月) 9.2トン・第31回(9~10月) 27.9トン・第32回(1~2月) 8.5トン

コロナの規制緩和が進む中、世界的にも不安定な情勢下、物価高騰等のあおりを受け、生活状況の改善は、遅々として進んでいません。そのような中にあっても各地の窓口にはたくさんの食品が集まっています。ご寄贈いただいた方々に心よりお礼を申し上げます。また、窓口を集まった食品を地域の方々に還元していく取り組みも広がっています。現場でのご協力を引き続き、よろしくお願いいたします。

●今後のフードドライブの予定

第34回フードドライブ **2023.9/18(月)~10/31(月)**

第35回フードドライブ **2024.1/16(月)~2/28(火)**

第36回フードドライブ **2024.5/15(月)~6/30(金)**

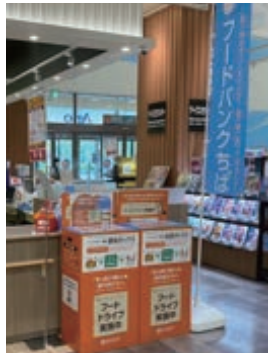


各団体がフードドライブで集めた食品を使って文字を作成。それらを組み合わせることでメッセージを完成させ、SNSで発信しました。

フードバンクと千葉県内生協連携キャンペーン 『いのちをつなぐフードドライブ』 14.9トン(2022年度)

昨年も9月から11月にかけて、千葉県内の4つのフードバンク（フードバンクふなばし、とうかつ草の根フードバンク、いちかわフードバンク by フリスタ、フードバンクちば）と6つの生協（パルシステム千葉、コープみらい、生活クラブ、なのはな生協、千葉県庁生協、千葉県生活協同組合連合会）が連携してキャンペーンを実施。恒例となった「夏休み子ども記者体験」、「つながりエールを贈ろう」の2つの企画をはじめ、店舗回収・組合員回収やボランティア体験・学習会の実施、フードバンク団体共同でのイベント出展等、年間を通じて様々なご協力をいただいています。

株式会社イトーヨーカ堂との連携がスタート 1587.6 kg(2022年10月~2023年3月)



「寄付できる食品が家にたくさんある。食べられるのに捨てられる食品を必要とする方々にお届けできるのは嬉しい」「今までも寄付したかったが窓口が見つからなかったので、身近なイトーヨーカドーで回収してもらえて良い」とのお客様からの声を受け、千葉県内の店舗でもフードドライブの取り組みが広がっています。昨年10月より幕張店・八千代店・津田沼店・アリオ蘇我店の4店舗に集まった食品を、いったんアリオ蘇我店へ集約していただき、フードバンクちばにご寄贈いただいています。また、集まった食品は、各店舗で2L飲料の空き箱に詰め替えて配送いただいています。このサイズの空き箱は、そのまま個人支援の配送に使用でき、梱包代の節約にも一役買っていたいだいたいます。

千葉ロータリークラブとの連携から 3.9トン(2022年度)

千葉ロータリークラブでは、加盟企業によるフードドライブの取り組みや新入会員向けの学習会・ボランティア体験会等、内部に向けての啓発活動にも力を入れていただいています。加盟企業独自のイベントや学習会への参加や職員ボランティアの派遣等、様々な形での繋がりが広がっています。

企業内フードドライブにご協力いただいた企業

NTT 東日本電信電話(株)・(株)関電工・(株)かんぼ生命保険・(株)京葉銀行・京葉段ボール工業(株)・社会福祉法人翠昂会・(株)竹中工務店・(株)千葉銀行・(株)千葉興業銀行・(株)千葉マツダ・東京電力パワーグリッド(株)・戸田建設(株)・フジセイコー(株)・フィデス(株)・(株)レプロコ



気合充分！NTT 東日本"仕分け隊"のみなさん。力仕事から細やか分別作業まで幅広くこなしていただき、大変助かっています。



駅を活用したステーションフードドライブ

通勤・通学はもちろん、買い物やお出かけ等、様々な人々が利用する駅という場所は、寄付を集めること以上に、多くの方々にフードバンクの活動を知っていただく格好のスポットです。関係企業やJRの皆さまには事前告知や当日のチラシや看板の作成等、多大なご協力をいただきました。北西部エリアでも実施されており、フードドライブの取り組みが線路に乗って広がっています。

●千葉ステーションビル

千葉ステーションビルでは、昨年11月と今年6月にJR京葉線沿線の3駅（海浜幕張駅、稲毛海岸駅、検見川浜駅）で、今年3月にはペリエ千葉（JR千葉駅）にてフードドライブを実施いただきました。

●JR蘇我駅

JR蘇我駅では、今年1月にはJR西船橋駅と同時開催のステーションフードドライブ、4



月には蘇我駅主催の「蘇我いちば」でフードドライブを実施しました。最寄り駅である蘇我駅が、地元の方々にとって往來の要となっていることをあらためて知ることができました。

スポーツ団体の発信力をあらためて実感しました。



●千葉ジェッツふなばし

今年4月には千葉ジェッツの試合会場である千葉ポートアリーナでフードドライブが実施されました。今回はコープみらいの冠試合ということもあり、事前告知の成果大で、初回にも関わらず約270kgもの食品を集めることができました。

●ジェフユナイテッド市原・千葉

Jリーグの試合開催日に実施するフードドライブはもちろん、夏休み小学生向け体験学習会の実施や U-13 ユース選手による仕分けボランティア等、チームを挙げ

てご協力いただいています。会場ブースには、鈴木大輔キャプテンをはじめ、多くの選手がお手伝いに来てくださり、サポーターの皆さんも大盛り上がりでした。また運営ボランティアには毎回、淑徳大学から学生が参加してくれています。



行政と企業のコラボ型フードドライブの取り組み

●千葉県(循環型社会推進課) × ●そごう千葉店

そごう千葉店開店55周年記念イベント「ちばSDG'sフェスティバル」の一環としてフードドライブを実施していただきました。

●千葉市(廃棄物対策課) × ●イオンモール幕張新都心

以前より千葉市では、市内の公民館等を活用して定期的にフードドライブの取り組みを行っています。さらに実施規模を拡大し、JR京葉線の新駅・幕張豊砂駅開業を控えたタイミングでイオンモール幕張新都心に回収ボックスを設置、期間限定でフードドライブを実施していただきました。

たくさんの企業・団体が継続してフードドライブに取り組んでくださっています。

株式会社銚子丸 2,254 kg (2022年度)

株式会社ダイエー(グルメシティ千葉中央店) 264.5 kg (2022年度)

アロマルシェ・カーブスジャパン・市民ネットワークふなばし・損害保険ジャパン株式会社・第一生命保険株式会社千葉総合支社おゆみ野営業オフィス・千葉フード連合(ヤマサ醤油労働組合、石井食品労働組合・TaKaRa労働組合・合同酒精労働組合 他)・ティップネス蘇我・富国生命保険相互会社千葉支社・ホンダ販売労働組合・ミスターマックス新習志野店・明治安田生命保険相互会社千葉支社千葉東営業所 他(2022年度協力団体・企業)

2022年度の食品の支援および寄贈実績をご報告いたします。

【支援量】 **99.2** トン (前年比 125% ↑)

団体 のべ **522** 団体 **80.7** トン (前年比 122% ↑)
 個人 のべ **2180** 件 **18.2** トン (前年比 101% ↑)
 その他 **0.3** トン

【寄贈量】 **125.2** トン (前年比 108% ↑)

団体 のべ **244** 団体 **73.5** トン (前年比 160% ↑)
 個人 **51.5** トン (前年比 134% ↑)
 (内フードバンクちばへの持ち込みおよび送付 のべ **517** 件 **5.9** トン)

2022年度も団体や企業からたくさんのご寄贈をいただきました。

【主な寄贈団体】(敬称略・50音順) (注)公表を希望されない団体・企業様については、こちらには掲載しておりません。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	防災備蓄食品	100 kg	株式会社千葉銀行	玄米、防災備蓄品 他	2013.4 kg
あおみ建設株式会社東京支店	防災備蓄食品	45.9 kg	千葉県	飲料	264 kg
アクスル株式会社	漬物、菓子 他	125.5 kg	千葉県社会福祉協議会	防災備蓄品	82.2 kg
アサヒグループ食品株式会社	フリーズドライ食品 他	2096.3 kg	千葉市中央区	防災備蓄品	357.5 kg
旭食品株式会社	惣菜レトルト食品、乾物 他	56.4 kg	公益社団法人千葉市観光協会	野菜、ドレッシング	15.1 kg
旭ダイヤモンド工業株式会社	防災備蓄食品	31.5 kg	千葉市少年自然の家	防災備蓄品	39.6 kg
株式会社天乃屋	菓子	601.2 kg	千葉市立海浜病院	防災備蓄品	546.8kg
石井食品株式会社	惣菜調味料	75.6 kg	株式会社千葉ステーションビル	防災備蓄品	451.2 kg
印西市役所	粉ミルク、防災備蓄食品	112 kg	月島テクノメンテサービス株式会社	防災備蓄品	318 kg
エステ・スクエア青葉の森管理組合	防災備蓄食品	76.8 kg	株式会社テルヴィス	オリーブオイル 他	1456.3 kg
NTTアーバンバリューサポート株式会社	防災備蓄食品	180.6 kg	東京ガスネットワーク株式会社	防災備蓄品	37.8 kg
NTT東日本	缶詰、防災備蓄食品	3320.7 kg	東芝エレベーター株式会社	防災備蓄品 他	38.2 kg
エヌ・ビー・ワイ株式会社	米	270 kg	東方地所株式会社	米	650 kg
カルゲン製薬株式会社	飲料各種	267 kg	東葉高速鉄道株式会社	防災備蓄品	313.7 kg
株式会社関電工	飲料、米	331.2 kg	株式会社トヨタユーゼック	防災備蓄品	55 kg
関東農政局	飲料、米	121.3 kg	株式会社永谷園ホールディングス	フリーズドライ食品 他	304.1 kg
株式会社kikutaya	菓子	5.1 kg	日清食品株式会社	インスタント食品	419.4 kg
コカ・コーポラトラーズジャパン株式会社	飲料	5289.4 kg	株式会社ニッポン	防災備蓄品	32 kg
こくみん共済coop(全労済)	防災備蓄食品	4.6 kg	日本空港ビルデング株式会社	防災備蓄品	30.6 kg
生活協同組合コープみらい	米	12800 kg	日本新薬株式会社	缶詰 他	2.6 kg
株式会社サカイ引越センター	防災備蓄食品	44.8 kg	株式会社ネクサス	飲料、菓子	8.9 kg
JFE物流株式会社	防災備蓄食品	662.4 kg	ノボザイムズジャパン株式会社	菓子、ジャム 他	9.7 kg
JFEコンテナ株式会社	防災備蓄食品	6.1 kg	パナソニック産機システムズ株式会社	食品見本市展示品	424.1 kg
JFEスチール株式会社	防災備蓄食品、菓子	96 kg	東関東財務局	菓子	45.3 kg
JCOM株式会社	飲料	130 kg	東日本旅客鉄道株式会社 京葉車両センター	防災備蓄品	33.6 kg
株式会社 JERA 千葉火力発電所	缶詰、防災備蓄品	340.8 kg	東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社津田沼地区指導センター	防災備蓄品	61.8 kg
株式会社ジャックス	防災備蓄品	7.3 kg	株式会社マイナビ	防災備蓄品	45 kg
社会福祉法人翠昂会	飲料水	4320 kg	株式会社舞浜リゾートライン	防災備蓄品、レトルトカレー	274.5 kg
セカンドハーベスト・ジャパン	インスタントラーメン	177.6 kg	マブチモーター株式会社	防災備蓄品、レトルトカレー	477.3 kg
セブン&アイ・ホールディングス	菓子	42 kg	株式会社水越	缶詰	320 kg
全国農業協同組合	米	150 kg	三井住友海上火災保険株式会社成田支社	防災備蓄品	1.5 kg
ソニーカスタマーサービス株式会社	防災備蓄品	1.6 kg	株式会社 mizkan	飲料	97 kg
大東建託株式会社千葉支店	防災備蓄品	98.9 kg	株式会社明治	菓子	328.9 kg
太平電業株式会社	飲料	307.2 kg	モランボン株式会社	惣菜用調味料	218.5 kg
大和ハウス工業株式会社	防災備蓄品	707.9 kg	ヤマサ醤油	調味料 他	1093.1 kg
ちばぎん証券株式会社	防災備蓄品、レトルトカレー 他	149 kg	特別養護老人ホームローゼンヴィラはま野	防災備蓄品	131.8 kg

2022年度 フードバンクちばはサポート会の皆さまに支えられています。

【個人会員】 96名

【団体・法人会員】 82団体 (敬称略)

社会福祉協議会

旭市社会福祉協議会
 我孫子市社会福祉協議会
 いすみ市社会福祉協議会
 市川市社会福祉協議会
 市原市社会福祉協議会
 印西市社会福祉協議会
 浦安市社会福祉協議会
 鎌ヶ谷市社会福祉協議会
 鴨川市社会福祉協議会
 君津市社会福祉協議会
 神崎町社会福祉協議会
 栄町社会福祉協議会
 佐倉市社会福祉協議会
 山武市社会福祉協議会
 酒々井町社会福祉協議会
 芝山町社会福祉協議会
 多古町社会福祉協議会
 東金市社会福祉協議会
 東庄町社会福祉協議会
 長柄町社会福祉協議会
 習志野市社会福祉協議会
 成田市社会福祉協議会
 野田市社会福祉協議会
 富津市社会福祉協議会
 船橋市社会福祉協議会
 松戸市社会福祉協議会
 南房総市社会福祉協議会
 八街市社会福祉協議会
 八千代市社会福祉協議会
 横芝光町社会福祉協議会

中核地域生活支援センター・生活困窮者自立相談等相談機関関係団体

大網白里市生活相談センターCーと
 柏市地域生活支援センターあいネット
 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
 特定非営利活動法人長生夷隅地域のくらしを支える会
 社会福祉法人福祉楽団
 社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会
 流山くらしサポートセンターユーネット
 特定非営利活動法人船橋福祉相談協議会ふらっと船橋
 特定非営利活動法人リンク

生協関係団体

生活協同組合コープみらい
 生活協同組合パルスシステム千葉
 生活クラブ生活協同組合千葉
 千葉県生活協同組合連合会

企業

旭食品株式会社東関東支店
 株式会社千葉ケイテクノ
 株式会社銚子丸
 株式会社ライフ食品研究所


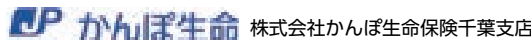


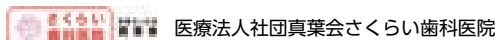
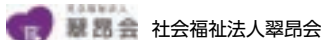


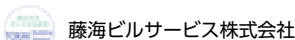



その他の団体

一般社団法人アクティブシニア応援センター
 日本聖公会 鴨川聖フランシス教会
 さくら・市民ネットワーク
 社会福祉法人生活クラブ
 千葉県協同組合提携推進協議会
 千葉友の会
 フード連合千葉地区協議会
 NPO ブライト
 U A ゼンセン千葉県支部
 NPO 法人ワーカーズコープ東関東事業本部

福祉施設・子ども食堂関係団体

社会福祉法人あひるの会 あかね園
 乳児院イーハトーブ
 おむすび食堂
 木更津みなと口こども食堂
 キタナラ子ども食堂
 社会福祉法人よつば グループホーム クローバーハウス
 社会福祉法人共育の広場コミュニティ長柄
 NPO 法人とどろき
 社会福祉法人習愛会花の美園
 ならしの地域福祉事務所 めくもり
 富津子ども食堂 きみはま さっちゃん食堂
 ふなばし子ども食堂ネットワーク
 社会福祉法人ぶるーむ

千葉ロータリークラブ会員企業

2022年度 たくさんのご寄付・助成金をいただきました。

【寄付：団体・企業】 (敬称略)

134.2万円

フジセイコー株式会社・常総生活協同組合・千葉ロータリークラブ
 武蔵コーポレーション株式会社 他

【寄付：個人】 77件

126.3万円

【主な助成金】

休眠預金活用助成 (2年目) 1115万円

パルスシステム千葉コミュニティ活動助成基金 30万円

生活クラブ新型コロナ感染拡大による緊急助成 (第4次・5次) 60万円

ちばぎんハートフル福祉基金 80万円 赤い羽根共同募金助成 50万円

「花の駅」そが公園を通じて、地域の中で支援の輪が広がっています。



第3回「わくわく体験 まちづくり in ちば」の様子



皆さんには、継続的にお手伝いいただいています。今年は千葉市主催の花壇コンクールにもエントリーし、おおぞら高校の生徒達が種から育て、苗作りをし、秋には立派な花壇が出来上がる予定です。また、4者協同イベント「わくわく体験 まちづくり in ちば」も春秋年2回の開催が定着しつつあり、多様な団体が盛り上げ役を買って出て出てきています。フードバンクからガーデニングへ、ガーデニングからフードバンクへ繋がったりとどちらにもありがたい支援の輪が広がっています。

CO・OP 共済 地域ささえあい助成を活用した「生活協同組合パルシステム千葉」「淑徳大学・コミュニティ政策学部消費者法研究室」「ワーカーズコープちば」「フードバンクちば」の4 団体で構成する「SDG'sを活かした地域コミュニティづくり」事業も最終年度を迎え、「花の駅そが」公園を活用したコミュニティガーデンづくりを通じて、多様な団体や様々な人達の協同・交流が生まれつつあります。地域のボランティアの方をはじめ、株式会社LIXILトータルサービス、おおぞら高等学院千葉キャンパス、地域活動支援センター「じねん」、千葉工業高校の皆さんは、継続的にお手伝いいただいています。今年は千葉市主催の花壇コンクールにもエントリーし、おおぞら高校の生徒達が種から育て、苗作りをし、秋には立派な花壇が出来上がる予定です。また、4者協同イベント「わくわく体験 まちづくり in ちば」も春秋年2回の開催が定着しつつあり、多様な団体が盛り上げ役を買って出て出てきています。フードバンクからガーデニングへ、ガーデニングからフードバンクへ繋がったりとどちらにもありがたい支援の輪が広がっています。

TOPICS

海外から留学生がやってきました!

日本の食品ロス問題に関心のあるアメリカオレゴン州のポートランド大学の留学生の研修受け入れの申し出がありました。アメリカのフードバンクは大企業のような規模なのに対し、こんなところでいいのかとも思ったりしましたが、学生達は下調べもきちんとしてきていて、日本の現状もよく把握していました。質問も非常に活発で、意識の高さを感じました。私達も大変貴重な体験をさせていただきました。



余ってませんか。もったいない食品大募集中!!

【ご家庭から】

家庭で余っている食品（保存可能な物）を募集しています。

寄付いただきたい食品

- | | |
|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 乾麺・防災食 等 | <input type="checkbox"/> 缶詰・瓶詰 等 |
| <input type="checkbox"/> レトルト食品菓子・飲料 | <input type="checkbox"/> インスタント食品 |
| <input type="checkbox"/> 菓子・飲料 | <input type="checkbox"/> 乾物・調味料各種 |
| <input type="checkbox"/> ギフトパック（お歳暮・お中元等） | |

【企業等から】

包材の破損や賞味期限間近などにより、廃棄する予定の食品（賞味期限1カ月以上）等がございましたら、ぜひご寄贈ください。条件等は別途ご相談ください。

お問い合わせ

ボランティア活動に参加してみたいという方を随時募集しています。またフードバンク活動についての詳細などお気軽にお問い合わせください。

 **043-301-4025** 平日 10:00~17:00

 **043-301-4026**
※スタッフ不在の場合は留守番電話にメッセージをお伝えください。

 **support@foodbank-chiba.com**

※メールアドレスが変わりました。

 **http://foodbank-chiba.com**

ブログ：**fbchiba.ko-me.com**

フードバンクちば

〒260-0835

千葉市中央区川崎町 60(花の駅そが内)



個人支援に利用させていただいている食品の一例

「フードバンクちばサポート会」入会のご案内

フードバンクちばの活動は、サポート会費や寄付に支えられています。ぜひサポート会への入会および寄付をご検討いただき、財政面からのバックアップをお願いいたします。

<サポート会入会方法>

郵便局の振込用紙の備考欄にお名前と連絡先、個人・団体のいずれかを明記し、下記口座に会費をご入金ください。

● 会費

個人サポート会員：1口2,000円/年(1口以上)

法人・団体サポート会員：1口10,000円/年(1口以上)

会費納入先

● 郵便振替口座

口座番号：00160-8-486977

口座名義：フードバンクちばサポート会

● ゆうちょ以外からの振込先

銀行名：ゆうちょ銀行

種別：当座 支店名：〇一九店

口座番号：0486977

口座名義：フードバンクちばサポート会



入会特典の缶バッジ

<ご寄付のお願い>

● 郵便振替口座

口座番号：00150-2-652117 口座名義：フードバンクちば